

主任児童委員連絡会活動紹介

西区

西区は横浜市内で1番小さな区で、小学校9校・中学校5校、地域は6地区とみなとみらい地区となっています。みなとみらい地区にはまだ主任児童委員はいないため、6地区12名(男性2女性10)で活動しています。

毎月(8月除く)、西区児童支援・生徒指導専任教諭協議会に参加させていただき、学校・行政他各関係機関との情報交換や中学校ブロックでの情報共有などを行っています。また、西区地域子育て支援拠点が行う中学生対象の「いのちの授業」や赤ちゃんとのふれあいのにも協力し、毎年中学生から感動をもらっています。

12名という小さな連絡会ですが、学校と近い関係にあります。小さいからこそ動きやすく、年に数回懇親会をするなど楽しく活動しています。



西区主任児童委員連絡会 代表 伊藤 美紀

バトンタッチサポーター制度

(横浜市健康福祉局地域支援課)

令和7年12月の一斉改選に伴い試行導入した「バトンタッチサポーター制度」では、多くの退任委員の皆様が新任委員の活動を支えていただきました。新任委員へのアンケートでは、多くの方から「安心して活動を始めることができた」との回答があり、訪問同行や相談対応、関係機関との顔つなぎなどが特に役立ったとの声が寄せられました。

また、サポーターを務めていただいた皆様からも、経験や地域の情報を後任へ引き継ぐことができ、新任委員や地域住民の安心につながったとの意見が寄せられており、経験やノウハウを次の担い手へつなぐ取組として一定の成果が見られました。

今後、アンケート結果等を踏まえ、次期一斉改選に向けて本制度のあり方について検討してまいります。



主任児童委員連絡会ミニ研修(7月14日)

毎年各区代表と副代表が参加して行われるミニ研修、今年はさくらみらい横浜 副理事長 パング希江 氏をお招きし『「ファミリーホーム」という家庭の中で子どもたちとともに…」というテーマでお話を伺いました。

パング氏は児童相談所と連携しながら中高生向けの施設を運営されています。里親の大家族版です。ファミリーホームならではの温かい支援、ご自身のお子さんと同じように愛情一杯に子どもたちを見守っていらっしゃるお話を聴き、一同涙する場面もありました。一人でも多くの要保護児童が家庭的なぬくもりを味わって大人へと成長してほしいと痛感しました。



地域の中で支援を必要とするお子さんを、我々主任児童委員としてどう見守っていくべきかを再確認した研修となりました。

広報紙作成委員会 羽場 和代

第18回 子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー2026

(主催:子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー実行委員会)



子ども虐待防止のシンボルであるオレンジリボンへの理解を深め、子どもたちの笑顔と安全を守る社会づくりを目指して開催されます。

本イベントでは、「都心・川崎」「湘南」「横須賀・横浜」の各コースからランナーがたすきをつなぎながら走り、ゴール地点である横浜・グランモール公園「美術の広場」を目指します。ぜひ会場や沿道での温かいご声援をお願いします。

2026年
10月18日(日)
開催

編集後記

新しいメンバーでスタートした今年度も、早いもので54号の広報紙をお届けする時期となりました。少しずつ活動にも慣れ、委員の皆さんとの出会いや交流で多くの元気をいただきながら活動に取り組んでいます。

本紙を通じて民生委員・児童委員、主任児童委員の活動を身近に感じていただき、各区の活動情報を発信しながら皆さまをつなぐきっかけとなれば幸いです。

これからも地域に寄り添った情報を発信してまいります。

広報紙作成委員会 柿沼 恵子

【委員長】 鈴木 敦子
 【顧問】 小嶋 優
 【委員】 皆川 慈保 加山 勢津子 柿沼 恵子
 田中 澄子 山科 礼子 田中 成男
 吉川 裕子 羽場 和代

よこはま民児協だより

令和8年9月発行
 横浜市民生委員児童委員協議会
 横浜市中区桜木町 1-1
 ☎ 045-201-8618
<https://www.yokohamashakyo.jp/minsei/>

No.54

会長 あいさつ

7月1日に欠員補充で民生委員・児童委員91名、主任児童委員17名が委嘱され、私たちの仲間に入られました。しかし、まだまだ欠員の地区はあり、長い間委員を引き受けてくれる方が見つからないという所もあります。

民生委員・児童委員の活動は地域の方にどのように映っているのでしょうか。「大変だ」というイメージだけなのでしょうか。以前、新任の委員の方から「私はいずれ両親の介護をしますが、その時に介護に役立ついろいろな知識があればよいと思い引き受けました」という話を聞きました。私たちは活動の中でいろいろな関係機関の方と接します。その中で知らなかったことを学べる機会が出てきます。地域の方の支えとなる活動がやがて自分の家族の支えになってくると思います。民生委員・児童委員だから経験できたこと、学んだこと、委員同士の繋がりができたこと、これらは活動から生まれた副産物だと思います。

もちろん、時間に余裕のある方はなかなかいません。仕事や他の活動、子育て、家庭。皆さん忙しい中で時間を作り出して活動に充てていることでしょう。その大切な時間の中で得たものをぜひ期の浅い委員の方に話してください。活動の魅力を皆で確かめ合いましょう。

横浜市民生委員児童委員協議会 会長 石井 マサ子



開催報告

地区会長研修

(6月5日 横浜市技能文化会館)



「地区民児協会長に求められる役割と立場」をテーマに、文学院大学人間学部人間福祉学科長の中島 修教授を講師に迎え、講義とグループワークを行いました。

講義では、活動の際は、一人で課題を抱え込まず、委員同士や地域包括支援センター、社会福祉協議会、行政などと連携しながら取り組む「チーム支援」の重要性についてお話いただきました。

また、民生委員の認知度を高めるために、大学生や中高生、現役社会人などの若い層への働きかけや、負担を軽減するためのオンライン会議やチャットツールなどICTを活用した他都市の事例も紹介いただきました。

グループワークでは活発な意見交換が行われました。

負担を軽減し、やりがい大切にしながら活動できるよう、持続可能な民生委員のあり方について、改めて考える機会となりました。



関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

(7月30日・31日)

千葉県千葉市)

横浜市民児協から理事7名と事務局2名が出席しました。講演では、東京大学附属病院リハビリテーション科臨床指導医等を務める酒向 正春 氏が健康寿命延伸について講義を行いました。寝たきりや麻痺により歩行が困難となった方々が、積極的なリハビリによって生き生きとした生活を送る様子が紹介され、健康づくりやリハビリの重要性について理解を深めました。

分科会では「民児協の組織力向上に向けた取り組み」をテーマに、寺木 好子理事が金沢区・釜利谷地区の実践を発表しました。一人で抱え込まず、互いに声を掛け合いながら協力して活動することや、交流の機会を通じて活動を楽しめる環境づくりを大切にしていることが紹介されました。また、仕事や家庭、自身の生活との両立を図りながら、無理なく継続できる組織づくりの重要性が共有されました。



横浜市民児協理事



寺木理事による実践報告

(注) 本文中、「民生委員・児童委員」は、とくに必要な場合を除き、「民生委員」と表記しています。

特集

魅力ある民生委員・児童委員活動について



市民児協理事にインタビュー

横浜市版民生委員・児童委員キャラクター「よこはまミンジー」

第1回 活動の定着を支える各区での取組について

令和7年12月の一斉改選により、新たなメンバーでの活動がスタートしています。新たに委嘱された方々の中には、慣れない活動に心配や不安を抱いたり、対応の難しさを感じたりしてる方も少なくないと思います。

そうした気持ちに寄り添い、安心して活動に取り組んでいただけるよう、各区での取組みについて伺いました。
(7月3日 横浜市社協「民生委員児童委員会部会」)

話しやすい・声を出しやすい雰囲気づくり

- 「何でも話せる雰囲気づくり」を意識し、定例会を和やかな場にする。
- 困りごとや不安を自分から話せる機会をつくる。
- わからないことや困りごとを共有し、相談しやすい関係づくりを心掛ける。
- 発言しやすいようにグループに分かれて意見交換を行う。

ワンチーム



委員同士のつながり

- ミニ研修会やバス研修、交流会などを通じて委員同士のつながりづくりを進める。
- 定例会の席替えや少人数での話し合いを行い、普段接点の少ない委員同士の交流を促す。
- LINE等を活用して日頃から連絡を取り合える関係づくりを行う。

なかま



活動を伝え、楽しく続ける

- イベントに参加し、地域とのつながりを深め、民生委員活動を知る機会をつくる。
- 「民生委員は大変」というイメージではなく、活動のやりがいや楽しさも伝える。
- 「みんなが主役」を意識し、一人ひとりが活躍できる場をつくる。

であい



わからないことを一緒に考える場づくり

- 寸劇や動画を活用し、訪問活動の様子や対応方法をわかりやすく伝える。
- 先輩委員が質問に答える機会を設ける。
- 委嘱時には前任者との引継ぎや同行訪問を行い、活動を始めやすくする。
- 「言葉や役割がわからない」といった新任委員の戸惑いに寄り添いながら進める。
- 困ったときには相談できる体制づくりを進める。

ささえあい



一人で抱え込まないために

- 個別の相談や活動の振り返りを行い、対応方法を一緒に考える。
- 虐待や孤独死など重いケースに向き合う際は、委員自身の負担にも配慮する。
- 自分だけで解決しようとせず、関係機関につなぐことも大切にする。

無理をしない



※(写真) 広報紙作成委員会メンバー

自分の生活を大切にしながら、
個々の負担にならない
活動のカタチをこれからも
一緒に考えていきましょう!



地区民児協活動報告

港南
保土ケ谷 金沢

毎号3区ずつ、
特徴的な取組みをしている地区を
取り上げていきます。

港南区 永谷地区

めざせ地域と共に
明るく楽しい支え合い活動を

一人暮らしの高齢者や障害者、子育て世帯、生活に悩みがありどこに相談してよいかわからない方などが、気軽に相談できる環境を整え、安心して生活できるようお手伝いします。秘密は厳守します。

日々の見守りはもちろん、一人暮らしの高齢者を対象とした食事会や楽しい催し物。秋には、お芋ほりを行い、昼食には手作りで具たくさんのお芋汁とおにぎり弁当を用意しています。また、高齢者、障害者、未就学児や子ども、車椅子の方など、誰もが参加できるバリアフリーコンサートは好評です。音楽が好きでもクラシックは敷居が高いと感じる方にも親しみやすい、文字通りのバリアフリーコンサートで、プロの演奏家による生演奏を楽しむひとときを提供しています。

地域の方々の応援と参加により、外出の機会の創出や見守り、会話の場づくりにもつながっています。

会長 米川 利子



保土ケ谷区 常盤台地区

お揃いエプロンで活動

常盤台地区は横浜国立大学を取り囲む丘の上の住宅地です。11人で活動しています。大学の敷地が広いので、高齢者のサロンや食事会などは地区で1か所ではなく、自治会ごとに民生委員一人ひとりが開催し、皆さんが参加しやすいようにしています。

近年地区から近い所に新駅ができ、若い家族が増えてきました。子育てサロンもベビーの子育てを応援するものになり、Instagramで開催案内をしたり工夫をしています。

そして地区全体の行事に民生委員として出る時にはお揃いのピンクのエプロンを着ています。鮮やかなピンクがよく目立ち、皆さんから民生委員だと認識してもらえますし、委員自身もテンションが上がると好評です。

会長 田中 澄子



金沢区 金沢南部地区

こどもたちの幸せを願って

金沢南部地区は民生委員・児童委員が児童委員として活動する場がたくさんあります。毎週開催の「地域のひろば」や一大イベントのこどもフェスティバル、子育てセミナーなどはとても楽しい活動です。養育者の笑顔が嬉しくて、こどもの成長が喜びです。

また、民児協と学校との連絡会を行っています。こどもたちの様子をうかがう中で見守りを依頼されたり、地域のこどもたちの様子を学校にお伝えしたりすることもあります。地域の中の児童委員だからこそ出来ることだと思っています。

一人でも多くのこどもたちの幸せを願ってこれからも楽しみながら、健やかな育ちの一助となれるよう活動していきたいと思っています。

会長 関根 とみ江

